

# 波紋

創刊 1985 年 (昭和 60 年) 7 月

2017 年 10 月  
No. 388 号

## 第 25 回元気になる森松展ご来場ありがとうございます!



9月7日(木)～9月9日(土)の3日間、「第25回元気になる森松展」を開催しました。出展社数40社(新規出展社数7社)の仕入れ先様のご協力により、多数の材料、商品などご案内させて頂きました。講演会では、プラスチックみらい研究会 西会長より「もしもプラスチックがなくなったら...」のテーマにてミニ映画の上映もあり、視聴された方々には多くの話題と関心を集めた情報提供ができたと思えます。来場者数は400名を超え盛況のうちに無事終了することができました。これもご協力頂きました皆様のお陰でございます。心より御礼申し上げます。また、ご多忙のところご来場賜りましたお客様へも重ねて御礼申し上げます。すでに、次回に向けて今回の展示会を振り返り、反省点、改善点、気づきなどの意見を集め、より良い展示会を目指しております。今後皆様が一層ご満足頂きますよう「森松マン」は情報を提供し続けますので、来年の「元気になる森松展」も是非、ご期待ください。また、弊社の5階展示場は常設となっておりますので近くにお立ち寄りの際は、お気軽にお越しください。  
安井

「森松展 来場ありがとうございます」

森 直樹 (代表取締役社長)



9月7日(木)～9日(土)と開催の第25回元気になる森松展。今回は401名の来場者を迎え盛会のうちに終了いたしました。来場頂きました皆様へ御礼申し上げます。また会期中は、挨拶のみで十分な対応ができなかったこともありました。この場をお借りしましてお詫び申し上げます。

今回は「融合」つなぐ ひろがる 響きあう」というテーマ。サブテーマでした。展示会を開くのも、対面で商品を前にお話することで、より多くのアイデアが生まれ、また弊社と皆様の交流も深まる絶好の機会となります。本展示会を通じて、さらに皆様との「融合」を広げ、深まった場となればと願います。来場者数は3日間ということもあり、土曜日の三日目にはご家族連れでお越しただけの方も多数いらっしゃいました。そこで弊社の仕事に直接関わっている皆様のほか、その方達を支えているご家族の皆様ともお会いすることが出来ました。森松展がビジネスの交流の場のみならず、皆様のご家庭の話題の一つとなることが出来たら、非常に嬉しく思います。

森松展は今回で第25回、つまり25年という歳月を積み重ね、改善を繰り返して現在の形となっております。しかしまだまだこれで完璧ということは無く、将来のビジネスに繋がるものであることはもちろんのこと、展示会に来てよかったな、楽しかった!と思っ頂けるようなイベントを追求していきます。来年、第26回は今回の反省を踏まえ、さらに洗練された内容で皆様をお迎えすることが出来るよう、準備を進めていきたいと思えます。そして来年も皆様のお越しをお待ちしております!

## 「父親の二十七回忌法事」を終えて

伊東 郁二（特販部）



「冠婚葬祭」については無知のため、86歳になる母親に頼り切りで言われるままに何も考えずに法事を務めてきた。「二十三回忌までは親戚を交えて欲しい・・・」と言う、強い母親の意思を尊重して務めました。今回の二十七回忌は、「家族だけで・・・」とのことでしたが、伊東本家の跡取り夫婦とその息子家族だけに出席をお願いした。我々の家族だけならば法要後の食事の場所は選ばなかったが、本家を招くので「法事の会席料理」を扱っている場所を予約した。たまたま電話をしたら70歳過ぎの店主が出られた。「18名で二十七回忌の法事を告げる」と、「今は十三回忌までは普通だが十七回忌からはやられない家庭が一般的になってきている。二十七回忌は律儀ですね・・・」と言われた。そこで初めて「法事回忌の法要・何回忌まで務めるべきなのか？」調べてみることにした。

告別式、初七日、四十九日、一周忌、三周忌までは知っていたが、正直、その先の法事については、母親に頼り切りで言われるまままで知らなかった。一周忌以降の法事回忌の法要については、三回忌、七回忌、十三回忌、十七回忌、二十三回忌、二十七回忌、三十三回忌、三十七回忌、五十回忌まであることを知った。今では、十三回忌までは行いが、それ以降は行わない家庭が増えていくそう。しかし、仏教では亡くなってから33年経てば無罪放免となり極楽浄土に旅立てるとされる節目の年となるために「三十三回忌」の法要を行い、最後とする家庭もあることを知った。ちなみに、法事回忌の法要を行う年は「亡くなった年+回忌数-1」で計算すれば簡単に解ることも知れた。同じ意味合いで使っていた言葉だが、違いがあることも知れた。「法要」とは、遺族が故人の冥福を祈るためにお経をあげてもらったこと。『「法事」とは、法要後の会食まで含めたもの。』だそう。結局のところ、今は昔と違い、何でもそうだが「これだ！」と言う決まりはない。法事回忌の法要も昔より省略・簡素化されることが多くなってきているのが現状。「日々手を合わせる」などの「気持ちが大切」だと感じた。知っていて簡素化するのと知らずに簡素化しているのでは大きな差があるが、最低限のルールを次世代となる息子・孫につなげていきたいと「法事」を終えて感じました。

## 永平寺

村田 恒夫（総務部）



先日、妻と永平寺へ行ってきました。一宮から高速を利用して2時間強で到着しましたが、永平寺のすぐ前にある駐車場が満車で、さあ大変！駐車場を探しながら坂を下っていききましたが、幸運にもお土産屋（お食事処）さんの駐車場に1台空きがあるのを見つけて車を駐車することが出来ました。丁度、お昼時でお腹も空いていたので、そのお土産店で食事をすることにしました。ソースカツ丼とおろし蕎麦のセット（福井名物の「ソースカツ丼」は、同じく福井名物の「おろし蕎麦」とセットでよく食べられることが多い）を注文し完食しました。無茶苦茶美味しかったです。車を駐車したお土産屋さんで食事をしたので、駐車料は無料になりました。食事後、商店が並んでいる通りをお土産を見ながら楽しんで永平寺に向かいました。お寺に入るまでの参道は、太い杉の木で囲まれ雰囲気がありました。券売機で入場券を買い、大広間に入り各自順路に従って絵天井の大広間に向かいます。永平寺は、とても広いお寺で迷子になってしまいそうなくらいです。修行僧の方が多く掃除も徹底されていて、きれいに磨かれた長い廊下と長い階段には感動しました（トイレもきちんと掃除されていて気持ちよかったです）。天井絵もすごく豪華で美しかったです。ただ、長い廊下と長い階段の昇り降りは、58歳には、ちよつと辛かったです。

### 【永平寺】

永平寺は、年間140万人もの参拝客が訪れる。曹洞宗の大本山。今から約770年前の寛元2年（1244年）、道元禪師によって開創された出家参禅の道場。現在でも修行僧に課せられる戒律の厳しさは有名で、常時二百余名の修行僧が、日夜修行に励んでいる。

曹洞宗には、大本山が2つあります。ひとつは福井県にある大本山永平寺であり、ひとつは横浜市にある大本山總持寺です。これを両大本山といいます。両大本山は曹洞宗寺院の根本であり、信仰の源であります。

# 歴メシ

西垣 浩司（製造部）



NEWS ZEROで桐谷キヤスターが「#歴メシ」を紹介していました。歴メシとは世界の様々な時代の料理を再現した食事です。ギルガメッシュやレオナルド・ダ・ヴィンチ、ヴィクトル・ユーゴーetc。歴史上の人物たちはどんなものを食べていたのかなぁ……。史料のわずかな記載などをもとに考察したうえ、入手が難しい食材は代替りのものを使って、現代人にも美味しく食べられるアレンジのレシピを紹介しており、記録に残るのは主に上流階級の豪華な食事ですが、どこで交流が始まったかによって、食材や香辛料が変化していくのが興味深く面白いです。フランス革命で、王族や貴族の主人を失った多くの宮廷料理人が、パリでレストランを開いて、洗練されたフランス料理文化は市民へと広まっていったという説明に、歴史ってなんでも動かすもんなんだなあ。ダ・ビンチの頃にはもう飽食は体に悪い事がわかっていて、良い食べ方のメモが残っている事に驚いた。「お腹がすいていなければ食べる必要はない。そして、食べる時は少量」は現代でも通じる考え方だね。私は料理自体出来ませんが……。



# パソコンが故障しました

大和田 夕美（企画営業部）



自宅で使用しているパソコンの電源が入らなくなり、故障してしまいました。社内でパソコンのトラブルがあれば、「岩間さん」って頼ってしまいますが……。自宅なので、岩間さんがいないので、なんとか自力でトライしてみました。ある日突然、パソコンが動かなくなる。ユーザーにとっては、これほど恐ろしい事態はありません。ですが、パソコンに貼ってあるシールに故障受付・修理受付、電話番号が書いてあり、助かりました。表示にある電話番号に電話をするとアナウンスが流れて、1番、2番と導かれていきますが、最後に修理の場合は、インターネットで、お客様登録をしていないと受付が出来ないことが、アナウンスされました。全部の案内を聞いたのは、なんだったんだらう、説明を聞いた時間はと……。悲しくなりましたが、気を取り直して、スマホでパソコンの製造元のホームページを確認。修理サービスへ申込みをクリックすると、申込みする前に、症状によるQ&Aがありました。チェック項目は10個ぐらいあり、電源ケーブルは接続されていますか？など初心者にも分かりやすく書いてあります。ログインID、パスワードを決めて、個人情報を入力、購入年月日、パソコンの製品番号、製造番号を入力し、完了してから、やっと修理依頼に取り掛かります。パソコンの引き取り日を決めて、預けるパソコンの部品を入力、ハードディスクの初期化の確認、修理金額の上限を設定して、連絡をもらえるようにする、支払方法、インターネットの使用回線、症状等など、チェックするところが多いですが、購入して3年未満でしたので保障を受けることが出来て修理代は必要なく、無駄な出費もなくて済むことが出来て良かったです。故障したら、メーカー保証を、注意をしてみてください。私のパソコンは、NECです。

# 改善委員

昨年3月より改善提案制度が発足し、今までに月平均8件の提案がありました。今後も改善委員をはじめ社員一丸となって改善に取り組んでいきたいと思ひます。皆様の協力をよろしくお願ひします。今回は過去の提案より成果の上がつた2点を紹介させていただきます。

①要工場NC場に使っていない棚を分解移動し設置。棚の再利用とスペースの有効利用ができ作業効率アップ。

提案者 間部



②裏地の原反掛けを平面から立体に改善。原反を掛ける時間が1日当たり約60分短縮できた。

提案者 橋野

森松株式会社のオリジナルキャラクター  
守り隊の『マモーリン』誕生しました！



このたびLINEスタンプデビュー☆  
全40種類100円で販売しています！  
いますぐクリックしてね！

森松株式会社 社内報  
No: 388 平成29年 9月 25日  
編集者  
大石耕平 小坂美香 村上美和子  
稲葉善貴 柳原 瞬 間部将大  
伊藤ゆかり 近藤結礼 加藤俊輔

## 夏の風景

山岡 尚子 (森松産業)

先日お寺に行った時にお寺の境内で八十年前の盆踊りをしている写真が貼ってあり、「今は近所の公園でやっているけど昔はお寺の境内でやっていたんだよ」と聞き、町内で盆踊り大会をやったばかりだったので、写真の風景と今の風景と何年たっても似たような感じだなあと思いました。「今はなくなったけど滑り台なんかもあったんだよ」とも聞き、子供の頃は学校が終わると、近くのお寺に遊びに行ったりしたなあと思いました。私の通っていた小学校は、近くのお寺の住職さんが習字の時間と道徳の時間の先生だった事を思い出しました。夏休み中はラジオ体操が終わると子供達がお寺に遊びに来るそうです。今は二十人位だそうですが、多い時には百人位いた事もあったそうです。遊びに来た子供達には絵本の読み聞かせなどをするそうです。夏休みに入り、私が出勤する頃には近所の子供はキャッチボールをしたり、虫取り網を持って走りまわっています。朝から元気いっぱい声を聞くとパワーをもらえる気がします。

